平成２８年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科　〔　国　語　〕　種目〔　国　語　〕

平成２８年度から使用する中学校用教科書の採択について

教科　〔　国　語　〕　種目〔　国　語　〕

１　本市の実態や生徒の状況

○　本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、各区に図書館があり、優れた古典や書物に身近に触れる機会が多い地域である。

○　平成２６年度の「基礎・基本」定着状況調査及び全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、自分の考えを表す際に、根拠を示すことは意識されているが、根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する力に課題がある。また、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する力に課題がある。

２　調査・研究の観点と視点

観　点	視　点
＜基礎・基本の定着＞	①　読書と情報活用 ②　伝統と言語文化に関する内容の記述 ③　漢字や語句の取り扱い方
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④　学習意欲を高めるための工夫 ⑤　問題解決的な学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥　単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦　発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑧　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑨　文字の大きさや配色等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩　社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫

3　各教科書の特徴及び意見

東京書籍	1　基礎・基本の定着 (1)　読書と情報活用 ○　読書単元として「読書への招待」を設け、小説、論説などの読書教材を掲載している。 ○　読書教材の後に、「読書案内」を設け、関連する本を紹介している。 ○　情報活用単元として、「読む〈言葉とメディア〉」、「書く〈情報発信〉」を設けている。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　各学年とも、古典単元を設け、随筆、物語、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。 ○　第１学年では、古典の導入として、身近な動物の猫を題材としている様々な古典を取り上げた文章を掲載している。 ○　第１学年では、３年間の古典教材の流れを示している。 (3)　漢字や語句の取り扱い方 ○　新出漢字は、脚注に抜き出し、音訓と用例を示している。 ○　意味や用法を理解しておきたい語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。 ○　巻末に「新出漢字一覧」として、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。 2　主体的に学習に取り組む工夫 (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　各学年とも、各単元の扉に、第１学年は詩、第２学年は短歌、第３学年は俳句を掲載している。 ○　日本語の豊かさに関心を持たせるため、行事や遊びなど、四季を楽しむ言葉を示している。 ○　スピーチの学習では、「ことわざ」を紹介する教材を設け、グループで交流しながら話す材料を集める活動を示している。 ○　第１学年で、原爆を取り上げた教材文「碑」を掲載している。 (2)　問題解決的な学習を実施するための工夫 ○　各教材の後に「てびき」を設け、目標を示し、「読み取る」で内容を解釈し、「考えを深める」で思考を深めるような発問を掲載している。 ○　意見文の学習では、目標と学習の流れを示し、「学習を振り返ろう」で自己評価する欄を設けている。 ○　「言葉の力」として学習のポイントを示し、学習の手助けとしている。 3　内容の構成・配列・分量 (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　本編、基礎編、資料編の３つで構成している。 ○　各単元を「構成・展開（説明的文章）」、「吟味・判断（科学的な論説文）」などのテーマにまとめている。 ○　教材については、３領域１事項を各単元にほぼ均等に配置している。 ○　巻末の「基礎編」及び「資料編」では、本編の内容を支えたり広げたりする内容の教材を掲載している。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　巻末の「資料編」に、発展教材として「古事記」など古典の補充教材や「話すこと・書くこと　題材例」などを掲載している。 4　内容の表現・表記 (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　各学年とも、文章と図表との関連について考えさせる教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、絵、地図、表、図、新聞などである。 ○　文章からわかることと図表からわかることを比較したり、それぞれの図表の特徴や効果を考えたりするなどの学習活動を示している。 ○　６人の生徒や案内役のキャラクターを登場させ、話し合いの例や学習のアドバイスを吹き出しで示している。 ○　「話す・聞く」「書く」「読む」「古典」「学びの扉」のイラストデザインを統一している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 5　言語活動の充実 (1)　社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫 ○　教材名に、スピーチ、グループディスカッション、リンクマップによる話し合い、チャート式討論などの言語活動例を示している。 ○　巻末の「資料編」に、手紙、新聞、レポートなど、様々な言語活動例を示している。

東京書籍	意見 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。 （理由） 東京書籍の教科書の特徴である、目標と学習の流れを示し、「学習を振り返ろう」で自己評価する欄を設けていること、「言葉の力」で学習のポイントを示し、学習の手助けとしていること、巻末の「資料編」に手紙、新聞、レポートなど様々な言語活動例を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や自分の考えを表す際に、根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する力や、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書く際に、取り出した情報を用いて、伝えたい内容を適切に説明する力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

学校図書	1　基礎・基本の定着 (1)　読書と情報活用 ○　「読書１」、「読書２」を設け、詩、随想、評論などの読書教材を掲載している。 ○　読書教材の後に、「読書案内」を設け、関連する本を紹介している。 ○　情報活用単元として、「情報と表現１」、「情報と表現２」を設けている。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　各学年とも、古典単元を設け、随筆、物語、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。 ○　第１学年では、古典の導入として、見知らぬ卒業生の卒業文集と関連づけて古典について説明する文章を掲載している。 (3)　漢字や語句の取り扱い方 ○　新出漢字は、脚注に抜き出し、本文中の読みを示している。また、教材末で、音訓と用例を示している。 ○　意味や用法を理解しておきたい語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。 2　主体的に学習に取り組む工夫 (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　各学年とも、各単元の扉に、テーマに合わせた詩の一節を掲載している。 ○　スピーチの学習では、「お気に入り」を紹介する教材を設け、聞き手のコメントを「コメントーマップ」にまとめ、自分のスピーチを振り返る活動を示している。 (2)　問題解決的な学習を実施するための工夫 ○　各教材の後に「学びの窓」を設け、「読む前に」、「読み深める」で内容を解釈し、「まとめ」で思考を深めるような発問を掲載している。 ○　意見文の学習では、目標と学習の流れを示している。 3　内容の構成・配列・分量 (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　本編と「言語の学習」とで構成している。 ○　各単元を「絆―家族の中で（家族）」、「伝統－時を超えて（古典）」などのテーマにまとめている。 ○　教材については、３領域１事項を各単元にほぼ均等に配置している。 ○　巻末の「言語の学習」では、資料を掲載している。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　巻末の「言語の学習」に、古典文法を中心とした発展教材を掲載している。 4　内容の表現・表記 (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　各学年とも、文章と図表との関連について考えさせる教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、絵、地図、図、新聞、絵巻、ポスター、漫画などである。 ○　写真を手がかりにして理解を深める教材が掲載されている。 ○　生徒のキャラクターを登場させ、話し合いの例を吹き出しで示している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 5　言語活動の充実 (1)　社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫 ○　教材名に、スピーチ、インタビュー、プレゼンテーション、ディベート、パブリックスピーキング、グループパネルディスカッションなどの言語活動例を示している。

三省堂	1　基礎・基本の定着 (1)　読書と情報活用 ○　「読書」を設け、随筆などの読書教材を掲載している。 ○　「『読書郵便』を楽しもう」として本を紹介するなどの読書活動を設定している。 ○　情報活用単元として、「情報を読み解く」を設けている。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　各学年とも、古典単元を設け、随筆、物語、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。 ○　第１学年では、古典の導入として、月を題材に各月の異名（旧暦）などを取り上げ、古典の親しみ方を説明する文章を掲載している。 (3)　漢字や語句の取り扱い方 ○　新出漢字は、脚注に抜き出し、本文中の読みを示している。また、教材末で、音訓と用例を示している。 ○　意味や用法を理解しておきたい語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。 ○　巻末に「一年生で学ぶ漢字字典」として、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。 2　主体的に学習に取り組む工夫 (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　各学年とも、「歌のことば」として歌詞を掲載している。 ○　スピーチの学習では、「紹介したい人物」や「大切にしているもの」を紹介する教材を設け、聞き方や話し方を話し合う活動を示している。 (2)　問題解決的な学習を実施するための工夫 ○　各教材の後に、「学びの道しるべ」を設け、「内容を整理しよう」で内容を解釈し、「考えを深めよう」で思考を深めるような発問を掲載している。 ○　意見文の学習では、目標と学習の流れを示し、「学習を振り返る」で自己評価の方法を示している。 3　内容の構成・配列・分量 (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　本編と資料編とで構成している。 ○　各単元を「わかりやすく伝える（説明的文章）」、「かかわりをとらえる（物語）」などのテーマにまとめている。 ○　教材については、３領域１事項を各単元にほぼ均等に配置している。 ○　巻末の「資料編」では、本編の内容を支えたり広げたりする内容の教材を掲載している。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　巻末の「資料編」に、さらに言語技能を高めるための発展的な言語活動例を掲載している。 4　内容の表現・表記 (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　各学年とも、文章と図表との関連について考えさせる教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、絵、図、新聞、グラフ、楽譜などである。 ○　グラフから気づいたことや考えたことを箇条書きにしたり、グラフの効果を考えたりするなどの学習活動を示している。 ○　生徒のキャラクターを登場させ、話し合いの例を吹き出しで示している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、見出しの背景やインデックスの色を統一している。（１年：オレンジ、２年：緑、３年：青） 5　言語活動の充実 (1)　社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫 ○　教材名に、スピーチ、討論ゲーム、プレゼンテーション、パネルディスカッション、ブックトーク、企画会議などの言語活動例示している。 ○　巻末の「資料編」に、インタビュー、アンケート、手紙、はがき、メールなど、様々な言語活動例を示している。

教育出版	**1　基礎・基本の定着** (1)　読書と情報活用 ○　「読書への招待」を設け、小説などの読書教材を掲載している。 ○　読書教材の後に、「本の世界へ」を設け、関連する本を紹介している。 ○　情報活用単元として、「メディア」を設けている。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　各学年とも、古典単元を設け、随筆、物語、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。 ○　第１学年では、古典の導入として、川柳や東海道中膝栗毛など様々な古典を取り上げた文章を掲載している。 (3)　漢字や語句の取り扱い方 ○　新出漢字は、脚注に抜き出し、漢字のみを示している。また、教材末で、音訓と用例を示している。 ○　意味や用法を理解しておきたい語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。 ○　巻末に「一年生で学習した漢字」として、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。 **2　主体的に学習に取り組む工夫** (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　各学年とも、「四季のたより」として季節にちなんだ和歌や俳句などを掲載している。 ○　スピーチの学習では、「通学路安全マップ」を報告する教材を設け、わかりやすい伝え方などについて話し合う活動を示している。 (2)　問題解決的な学習を実施するための工夫 ○　各教材の後に、「みちしるべ」を設け、目標と振り返りを示し、「確かめよう」で内容を解釈し、「深めよう」、「考えよう」で思考を深めるような発問を掲載している。 ○　意見文の学習では、学習の流れを示し、「目標と振り返り」で自己評価する欄を設けている。 **3　内容の構成・配列・分量** (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　本編、「言葉と文法　解説編」、「漢字」、「言葉の自習室」の４つで構成している。 ○　各単元を「言葉で意味づける（物語）」、「関係を見いだす（説明的文章）」などのテーマにまとめている。 ○　教材については、３領域１事項を各単元にほぼ均等に配置している。 ○　巻末の「言葉と文法　解説編」、「漢字」、「言葉の自習室」では、補充教材や資料を掲載している。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　巻末の「言葉の自習室」に、「学びのチャレンジ」として、本編の教材文を取り上げ、学習を振り返り、「挑戦しよう」として発展的な書く活動を掲載している。 **4　内容の表現・表記** (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　各学年とも、文章と図表との関連について考えさせる教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、絵、地図、表、グラフ、図、新聞、漫画などである。 ○　グラフから読み取れることを確認したり、グラフの数値を取り上げて、説明したりするなどの学習活動を示している。 ○　生徒のキャラクターを登場させ、話し合いの例を吹き出しで示している。 ○　「書く」、「話す・聞く」などのイラストデザインを統一している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、見出しの背景やインデックスの色を統一している。（１年：緑、２年：オレンジ、３年：青） **5　言語活動の充実** (1)　社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫 ○　教材名に、フリップ・図表を用いた報告、提案、討論、スピーチなどの言語活動例を示している。 ○　巻末の「言葉の自習室」に、インタビュー、バズセッション、案内、報告など様々な言語活動例を示している。

光村図書出版	**1　基礎・基本の定着** (1)　読書と情報活用 ○　読書単元として「読書生活を豊かに」、「読書に親しむ」を設け、物語やノンフィクションなどの読書教材を掲載している。 ○　読書教材の後に、「本の世界を広げよう」を設け、関連する本を紹介している。 ○　「私が選んだこの一冊　読書紹介をしよう」として本を紹介するなどの読書活動を設定している。 ○　情報活用単元として、「情報」を設けている。また、「情報コラム」を設けている。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　各学年とも、古典単元を設け、随筆、物語、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。 ○　第１学年では、古典の導入として、身近な月を題材としている様々な古典を取り上げた文章を掲載している。 ○　古典の学習のスタートとして「音読を楽しもう」を設けている。 ○　第２・３学年では、古典単元以外の単元にも、古典教材が掲載されている。 (3)　漢字や語句の取り扱い方 ○　新出漢字は、脚注に抜き出し、本文中の読みを示している。また、教材末で、音訓と用例を示している。 ○　意味や用法を理解しておきたい語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。 ○　巻末に「一年生で学習した漢字」として、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。 **2　主体的に学習に取り組む工夫** (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　各学年とも、「季節のしおり」として季節にちなんだ名文や季語などを掲載している。 ○　日本語の豊かさに関心をもたせるため、後見返しに色の名前と由来を示している。 ○　スピーチの学習では、「好きなもの」を紹介する教材を設け、スピーチの練習を聞き合い、助言し合う活動を示している。 ○　第１学年で、「広島江波山桜」を取り上げた教材文「桜守三代」を掲載している。 (2)　問題解決的な学習を実施するための工夫 ○　各教材の後に、「学習」を設け、目標を示し、「確認しよう」で内容を解釈し、「読みを深めよう」で思考を深め、「自分の考えをもとう」で学んだことを整理するよう学習の流れを示している。 ○　意見文の学習では、目標と学習の流れを示し、「学習を振り返る」で自己評価する欄を設け、「生活に生かす」で日常生活とのつながりを示している。 ○　「学習の窓」として学習のポイントを示し、学習の手助けとしている。 **3　内容の構成・配列・分量** (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　本編と「学習を広げる」とで構成している。 ○　各単元を「新しい視点へ（説明的文章）」、「いにしえの心に触れる（古典）」などのテーマにまとめている。 ○　教材については、３領域１事項を各単元にほぼ均等に配置している。 ○　巻末の「学習を広げる」では、補充教材や言語活動の補助教材を掲載している。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　巻末の「学習を広げる」に、小説や古典作品の補充教材、「話す・聞く」、「書く」などの言語技能を活用するための資料などを発展教材として掲載している。 **4　内容の表現・表記** (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　各学年とも、文章と図表との関連について考えさせる教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、絵、地図、表、グラフ、図、新聞、メモなどである。 ○　目標として「図表の役割について自分の考えをもつ」を示し、図表の役割や効果を考えさせる学習活動を示している。 ○　生徒のキャラクターを登場させ、話し合いの例を吹き出しで示している。 ○　「書く」、「話す・聞く」などのイラストデザインを統一している。

光村図書出版	(2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、見出しの背景やインデックスの色を統一している。（１年：緑、２年：オレンジ、３年：青） **５　言語活動の充実** (1)　社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫 ○　教材名に、スピーチ、グループディスカッション、ポスターセッション、プレゼンテーション、パネルディスカッション、提案などの言語活動例を示している。 ○　巻末の「学習を広げる」に、読書感想文、インタビュー、アンケート、通信文、資料の工夫の仕方など様々な言語活動例を示している。
	意見 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。 （理由） 光村図書出版の教科書は、「私が選んだこの一冊　読書紹介をしよう」として本を紹介するなどの読書活動を設定しており、基礎・基本の定着のための工夫がある。 さらに、光村図書出版の教科書の特徴である、目標と学習の流れを示し、自己評価する欄を設けていることに加え、「生活に生かす」で学習した内容と日常生活とのつながりを示していること、「学習の窓」で学習のポイントを示し、学習の手助けとしていること、巻末の「学習を広げる」に、読書感想文、インタビュー、アンケート、通信文、資料の工夫の仕方など様々な言語活動例を多く示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や自分の考えを表す際に、根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する力や、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書く際に、取り出した情報を用いて、伝えたい内容を適切に説明する力に課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

平成２８年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科　〔　国　語　〕　種目〔　書　写　〕

平成２８年度から使用する中学校用教科書の採択について

教科　〔 国　語 〕　種目〔 書　写 〕

1　本市の実態や生徒の状況

○　本市は、本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、各区に図書館があり、優れた古典や書物に身近に触れる機会が多い地域である。
○　生徒の実態として、授業において硬筆や毛筆を用いて、字体や筆順に注意して丁寧に書く態度は概ね定着しているが、書写で学習した内容を日常生活に活かすことができていない生徒が多いことが課題である。

2　調査・研究の観点と視点

観　　点	視　　点
＜基礎・基本の定着＞	①　姿勢・執筆法・用具の扱いの示し方 ②　伝統と言語文化に関する内容の記述
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③　学習意欲を高めるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	④　単元・題材や資料等の配列・分量 ⑤　発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑥　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑦　文字の大きさや配色等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑧　学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

東京書籍	**1　基礎・基本の定着** (1)　姿勢・執筆法・用具の扱いの示し方 ○　座って書く姿勢、構え方、用具の置き方、片付け方、鉛筆の持ち方を写真で示している。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方、用具の歴史を写真で紹介している。 ○　「いろは歌」、「竹取物語」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」、「方丈記」などの古典作品を扱っている。 **2　主体的に学習に取り組む工夫** (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　電子掲示板・道路の文字・本の表紙・書作品や、47 都道府県の石碑の文字などを紹介し、身の回りにある文字の目的や工夫について考えさせている。 ○　身の回りにある筆記具として、筆・鉛筆のほかに、筆ペン・サインペン・フェルトペン・ボールペン・万年筆を紹介している。 ○　巻頭に学習の流れを示している。 ○　「目標」、「調べよう」、「確かめよう」、「広げよう」、「振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。 ○　各教材末に「振り返ろう」として評価の観点を示している。その観点にそって、「できた＝○」「もう少し＝△」で自己評価を記入する欄を設けている。 ○　始筆・送筆・終筆を、「トン・スー・ピタッ」と擬音語を用いて説明している。 **3　内容の構成・配列・分量** (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　毛筆教材を、３年間で 12 教材提示している。各学年の内訳は、１学年５教材、２学年５教材、３学年２教材である。 ○　第１学年の毛筆教材は、「大志」、「夏山の緑うつりし小窓かな」、「大洋」、「和音」、「夢の実現」である。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　巻末に「発展」として、高等学校の学習内容である唐の四大家の文字の比較を掲載している。 **4　内容の表現・表記** (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　薄墨と朱の二色で、筆使いを示している。筆脈を青線で示し、形の特徴で注意すべき点を書いている。 ○　３人のキャラクターが、ヒントとなる事例や注意事項を解説している。 ○　楷書と行書を比較し、行書の特徴を示している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　行書の導入で、１ページの文字数が 700 文字以上である。 ○　学習の流れを「目標」、「調べよう」、「確かめよう」、「広げよう」の順にキャラクターのシンボルマークで統一して示している。また、学習活動を統一した枠で囲って示している。 ○　各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、見出しの背景の色を統一している。（１年：青、２年：緑、３年：ピンク） **5　言語活動の充実** (1)　学習や日常生活に生きる言語活動の工夫 ○　「生活を豊かにする文字」を設け、「「職場訪問をしよう」、「防災訓練に参加しよう」、「文化祭や卒業にむけて『栄光のかけ橋』」など、生活に生かすための教材を掲載している。 ○　第１学年の教材「職場訪問をしよう」では、職場訪問の学習の流れにそって、依頼状、記録、新聞、お礼状といった学習や日常生活に生きる様々な言語活動例を示している。 ○　巻末の「資料」に「いろいろな書式」として封筒、はがき、原稿用紙、新聞、ポスターセッション用の資料の書き方が示されている。
	意見 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。 （理由） 東京書籍の教科書の特徴である、各教材末に「振り返ろう」のコーナーを設け、評価の観点を示し、さらに、その観点にそって、「できた＝○」、「もう少し＝△」で学習を振り返り、自己評価を記入する欄を設けていること、始筆・送筆・終筆を「トン・スー・ピタッ」と擬音語を用いて説明していること、巻末の「資料」に、封筒、はがき、原稿用紙、新聞、ポスターセッション用の資料の書き方を示し、生活の中の様々な場面で活用することができるようにしていることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や書写で学習した内容を日常生活に活かすことができていないという課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

学校図書	**1　基礎・基本の定着** (1)　姿勢・執筆法・用具の扱いの示し方 ○　座って書く姿勢、構え方、執筆法を写真で示している。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　文字の変遷、筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。 ○　「いろは歌」、「竹取物語」、「枕草子」などの古典作品を扱っている。 **2　主体的に学習に取り組む工夫** (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　寺院や橋の名前･石碑の文字などを紹介し、身の回りにある文字について考えさせている。 ○　身の回りにある筆記具として、筆・鉛筆のほかに、筆ペン・サインペン・フェルトペン・ボールペン・色鉛筆・クレヨンを紹介し、様々な筆記具を使って書いた文字を示している。 ○　巻頭に学習の流れを示している。 ○　各教材に、「ここに気をつけよう」として、学習のポイントを確認する項目が設けられている。 ○　各教材末に「振り返って…」として評価の観点を示している。 **3　内容の構成・配列・分量** (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　毛筆教材を、３年間で 20 教材提示している。各学年の内訳は、１学年８教材、２学年８教材、３学年４教材である。 ○　第１学年の毛筆教材は、「天地」、「登頂成功」、「ぶなの森」、いろは歌、「栄光」、「草原」、「輝け未来」、「自主独立」である。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　第１・３学年に「発展」として、高等学校の学習内容である古典の書家、臨書、篆刻を掲載している。 **4　内容の表現・表記** (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　薄墨と朱の二色で、筆使いを示している。筆脈を赤線で示し、形の特徴で注意すべき点を書いている。 ○　２人のキャラクターが、行書を書くときの注意や振り返りを促している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　行書の導入で、１ページの文字数が 185 文字である。 ○　学習活動を統一した枠で囲って示している。 **5　言語活動の充実** (1)　学習や日常生活に生きる言語活動の工夫 ○　「書写を生かそう」を設け、「書写を生活に生かそう」、「作品を作ろう」など、生活に生かすための教材を掲載している。 ○　第３学年の教材「書写を生活に生かそう」で、「修学旅行で」、「荷物を送るときに」、「お祝いに」など身近な場面を設け、学習や日常生活に生きる様々な言語活動例を示している。

三省堂	1　基礎・基本の定着 (1)　姿勢・執筆法・用具の扱いの示し方 ○　座って書く姿勢、構え方、執筆法、鉛筆の持ち方を写真で示している。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。 ○　「いろは歌」、「竹取物語」などの古典作品を扱っている。 2　主体的に学習に取り組む工夫 (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　広告・本の表紙・ポスター・非常用プレート・電子メール・書作品などを紹介し、身の回りにある文字の工夫や効果について考えさせている。 ○　身の回りにある筆記具として、筆・鉛筆のほかに、長時間書いても疲れないシャーペン、手軽に使える筆ペンを紹介している。 ○　巻頭に学習の流れを示している。 ○　「目標」、「考えよう・話し合おう」、「書いて確かめよう」、「振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。 ○　各教材末に「振り返ろう」として評価の観点を示している。 3　内容の構成・配列・分量 (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　毛筆教材を、３年間で 12 教材提示している。各学年の内訳は、１学年７教材、２学年４教材、３学年１教材である。 ○　第１学年の毛筆教材は、「春光」、「若枝」、いろは歌、「夏めく空」、「名作」、「永久」、「輝く生命」である。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　第２学年に「発展」として、高等学校の学習内容である唐の書家や平安時代の日本の書家の紹介を掲載している。 4　内容の表現・表記 (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　薄墨と朱の二色で、筆使いを示している。筆脈を青線で示し、形の特徴で注意すべき点を書いている。 ○　３人のキャラクターが、ヒントとなる事例や注意事項を解説している。 ○　楷書と行書を比較し、行書の特徴を示している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　行書の導入で、１ページの文字数が 153 文字である。 ○　学習の流れを「考えよう」、「話し合おう」、「書いて確かめよう」、「振り返ろう」の順にシンボルマークで統一して示している。 5　言語活動の充実 (1)　学習や日常生活に生きる言語活動の工夫 ○　「生活に生かそう」、「書体を使い分けよう」、「効果的に書こう」を設け、「行事の目標を書こう」、「手紙を書こう」、「卒業記念冊子を作ろう」など、生活に生かすための教材を掲載している。 ○　第２学年の教材「書体を使い分けよう」では、「電話をしながらメモを取る。」、「学校行事を盛り上げる」といった身近な場面を設け、学習や日常生活に生きる様々な言語活動例を示している。 ○　巻末の「資料編」に「日常の書式」として便箋、封筒、荷物の送り状、のし袋、掲示物、ノート、原稿用紙の書き方が示されている。

教育出版	1　基礎・基本の定着 (1)　姿勢・執筆法・用具の扱いの示し方 ○　座って書く姿勢、構え方、執筆法、用具の置き方、片付け方、鉛筆の持ち方を写真で示している。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。 ○　「いろは歌」、「竹取物語」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」、「論語」、「古今和歌集」などの古典作品を扱っている 2　主体的に学習に取り組む工夫 (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　新聞の題字・寺院や橋の名前・表札・案内板・のぼり・書籍の題字・横断幕・樹木名・表示板などを紹介し、身の回りにある文字の目的や工夫について考えさせている。 ○　身の回りにある筆記具として、筆・鉛筆のほかに、筆ペン・フェルトペン・サインペン・ボールペンを紹介し、様々な筆記具を使って書いた文字を示している。 ○　巻頭に学習の流れを示している。 ○　「目標」、「試し書き」、「考えよう」、「生かそう」、「まとめ書き」、「振り返ろう」、「学習や日常生活に生かそう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。 ○　各教材末に「振り返ろう」として評価の観点を示している。その観点にそって、「できた＝○」、「もう少し＝△」で自己評価を記入する欄を設けている。 3　内容の構成・配列・分量 (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　毛筆教材を、３年間で14教材提示している。各学年の内訳は、１学年６教材、２学年５教材、３学年３教材である。 ○　第１学年の毛筆教材は、「天地」、「いろは歌」、「大木」、「栄光」、「平和」、「新たな決意」である。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　各学年や巻末に「発展」として、次学年の学習内容や高等学校の学習内容である古典の書家の文字や書の鑑賞を掲載している。 4　内容の表現・表記 (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　薄墨と朱の二色で、筆使いを示している。 ○　２人の生徒が、注意事項を解説している。 ○　楷書と行書を比較し、行書の特徴を示している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　行書の導入で、１ページの文字数が31文字である。 ○　学習の流れを「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」の順にシンボルマークで統一して示している。 ○　各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、インデックスの色を統一している。（１年：緑、２年：ピンク、３年：青） 5　言語活動の充実 (1)　学習や日常生活に生きる言語活動の工夫 ○　「学習活動や日常生活に生かして書こう」、「身のまわりの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書こう」を設け、「学習を生かして書く」、「３年間の学習の成果を生かそう」など、生活に生かすための教材を掲載している。 ○　第２学年の教材「学習を生かして書く」では、「新聞を書く」、「掲示物（ポスター）に案内を書く」、「案内状を書く」といった身近な場面を設け、学習や日常生活に生きる様々な言語活動例を示している。 ○　巻末の「書式の教室」に手紙、封筒、一筆箋、はがき、包み紙、エアメール、原稿用紙、国語のノート、メモ、志望理由書、小包の伝票の書き方が示されている。

光村図書出版	**1　基礎・基本の定着** (1)　姿勢・執筆法・用具の扱いの示し方 ○　座って書く姿勢、構え方、執筆法、用具の置き方、片付け方、鉛筆の持ち方を写真で示している。 (2)　伝統と言語文化に関する内容の記述 ○　文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。 ○　「いろは歌」、「枕草子」、「平家物語」などの古典作品を扱っている。 **2　主体的に学習に取り組む工夫** (1)　学習意欲を高めるための工夫 ○　雑誌の誌面や本・広告のデザインを紹介し、身の回りにある書体の特徴や効果について考えさせている。 ○　身の回りにある筆記具として、筆・鉛筆のほかに、フェルトペンを紹介し、様々な筆記具を使って書いた文字を示している。 ○　目次に中学校３年間の見通しや目標と学習の流れを示している。 ○　「学習の見通しをもつ」、「学習・活動に取り組む」、「次の学習に生かす」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。 ○　各教材末に「学習を振り返る」として評価の観点を示している。また、その観点にそって、「できた＝○」、「もう少し＝△」で自己評価を記入する欄を設けている。 ○　始筆・送筆・終筆を、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。 **3　内容の構成・配列・分量** (1)　単元・題材や資料等の配列・分量 ○　毛筆教材を、３年間で13教材提示している。各学年の内訳は、１学年６教材、２学年５教材、３学年２教材である。 ○　第１学年の毛筆教材は、「地球」、いろは歌、「目には青葉山ほととぎす初がつを」、「木立」、「月光」、「不言実行」である。 ○　全教材が見開きの２ページで学習できるようにページの割付がされている。 (2)　発展的な学習に関する内容の記述の状況 ○　第３学年に「発展」として、高等学校の学習内容である魏・東晋・唐・北宋・清の書家や平安時代の日本の書家の文字を扱っている。 **4　内容の表現・表記** (1)　本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ○　薄墨と朱の二色で、筆使いを示している。筆脈を青線で示し、形の特徴で注意すべき点を書いている。 ○　２人の生徒が、学習のポイントを解説している。 ○　楷書と行書を比較し、行書の特徴を示している。また、筆使いや筆圧の違いを示している。 (2)　文字の大きさや配色等の工夫 ○　配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○　行書の導入で、１ページの文字数が190文字である。 ○　学習の流れを「目標」、「学習の窓」、「学習を振り返る」の順にページの下半分に統一して示している。 ○　各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、見出しの背景の色を統一している。（１年：緑、２年：オレンジ、３年：青） **5　言語活動の充実** (1)　学習や日常生活に生きる言語活動の工夫 ○　「目的に応じて効果的に書こう」、「学習したことを生かして書こう」を設け、「文字を効果的に使うために」、「未来に向かって」など、生活に生かすための教材を掲載している。 ○　第２学年の教材「楷書と行書の使い分け」では、「職場体験のメモ」「学校案内パンフレット」といった身近な場面を設け、学習や日常生活に生きる様々な言語活動例を示している。 ○　巻末の「資料編」に「日常の書式」として手紙、封筒、はがき、送り状、願書、のし袋、原稿用紙の書き方が示されている。 ○　巻末の「資料編」に「活用のヒント」として「情報を集めて、整理する」、「情報を発信する」、「学校行事を盛り上げる」など学習や日常生活に生きる様々な言語活動例を示している。

光村図書出版	意見 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。 （理由） 光村図書出版の教科書は、全教材が見開きの２ページで学習できるようにページの割付がされていたり、楷書と行書を比較し、行書の特徴を示すとともに、筆使いや筆圧の違いを示したりするなど、内容の構成等に工夫がある。 さらに、光村図書出版の教科書の特徴である、各教材末に評価の観点を示していることに加え、その観点にそって、「できた＝○」、「もう少し＝△」で学習を振り返り、自己評価を記入する欄を設けていること、始筆・送筆・終筆を「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明していること、巻末に、手紙、封筒、はがき、送り状、願書、のし袋、原稿用紙の書き方を示していることに加え、「活用のヒント」として「情報を集めて、整理する」、「情報を発信する」などの日常生活に生きる様々な言語活動例を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、書写で学習した内容を日常生活に活かすことができていないという課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。